

九州協同建設
創立50周年

職業人の使命果たす

永年会員19社を表彰



建設コンサルタンツ協会九州支部（福島宏治支部長）は7日、福岡市の西鉄グラントホテルで同支部創立50周年記念事業を開いた。写真。福島支部長は「事業環境は変化し

ても、生活を守る、地域の成長の一翼を担うというコンサルタンの仕事は今後50年も変わらない」と述べ、職業人としての使命を果たし続けることを誓った。

式辞を述べた福島支部長は、「支部会員企業が150社となり、関東支部と並ぶ規模にまで成長した」と報告し、これまでの支部運営への協力に感謝した。続けて、「災害多発国の日本において、命を

守る社会資本整備に役立つことがわれわれ職業人の使命。生産性向上を進め、魅力ある産業を目指し、九州から新しい風を送りたい」と決意を述べた。

来賓あいさつした増田博行九州地方整備局長は「度重なる災害対応では災害協定に基づき、支部が復旧への道筋をしっかりと立ててくれた」と感謝した後、働き方改革など建設業が抱える課題について「さらなる連携強化に取り組みたい」と述べた。小川洋福岡県知事は17年九州北部豪雨災害に触れ「復興を迅速に進めるためには皆さんの力が欠かせない」とし、引き続き協力を呼び掛けた。

永年会員会社表彰では、支部創設から在籍している松尾設計など19社を表彰した。また、支部長経験者も登壇し、11・15年の2期を務めた植田

薫氏は夢アイデア事業、15・17年の1期を務めた村島正康氏は災害対応などについて当時の活動を振り返った。

記念事業として実施した「つばやき土木写真コンテスト」は、最優秀賞に輝いた青野正夫さんらを表彰した。青野さんは高千穂三段橋の写真に「三世代橋」というつばやきを添え、人と人をつなぐ橋の役割はいまも昔も変わらないという思いを込めた。

式典後には、ペシャワール会現地代表の中村哲医師による記念講演を開いたほか、記念祝賀会では支部会員によるCM総選挙などを開き、節目の年を祝った。